

令和6年度



の幼児教育
(No. 6)

～各園の研究テーマに沿った実践より～



芦屋市立幼稚園教育研究会

はじめに

市立幼稚園では、芦屋市の教育・保育理念「“いのち”を大切にし、生きる力の基礎を育む」に基づき「あかるく元気な子ども」「しっかり考え合う子ども」「やさしい子ども」を育てたい子ども像とし、教育に取り組んでいます。

芦屋市の幼児教育のセンター的役割を担っている市立幼稚園として、本書は、幼児教育について可視化を図り、市立幼稚園での実践を通した「幼児の学び」と、「小学校への学びの接続」について、広く発信することを目的として作成しています。

今年度は、各園の研究テーマに沿った保育実践をまとめました。その分野は、生き物との触れ合いや運動遊びを通した人との関わり、3年保育を通しての学び、地域の教育・保育施設との連携、幼小連携など、多岐にわたっています。また、今年度、市立幼小中の学校園で取り組んできたP・E・A・C・Eプロジェクトと合わせて保育を見つめなおした実践もあります。

それぞれの実践について研究協議を重ねる中で、豊かな経験を通しての「学びの芽生え」を確かに読み取ることに努めました。そして、市立幼稚園の豊かな環境（ひと・もの・こと）が子どもの育ちを伸長するものであることを改めて実感しました。

幼稚園での取組を広くお知らせするとともに、今後も研究・研修を深め、本市の幼児教育の質の向上を図ってまいります。

市立幼稚園の取組に、ご理解とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

芦屋市立宮川幼稚園
岩園幼稚園
小槌幼稚園
西山幼稚園
潮見幼稚園

【本冊子の構成】

心豊かな幼児を育む・・・

園名

令和6年度の各園の
研究テーマ

地域との交流を通じて、人と関わる力を育てる

STEP 1

5歳児

この実践のねらい

友達と協同する

幼児の育っている姿



ランドをつくろう！

幼児の会話

きっとよろこぶね！



子どもの考えを取り入れていこう

先生の読み取りや援助

※1

この場面での幼児の学びや
小学校を見据えた**学びの接続**
を後で分析する



～子どもの学び～

「やってみたい！」
が学びの芽！

この実践を通しての
「子どもの学び」

※1

の学びの接続

小学校以上の教育

国語 生活 図工

関連する教科

この実践が関連する
「**小学校の教科**」

関連する10の姿

社会生活との関わり 思考力の芽生え

※の場面で育っている主たる
「**幼児期の終わりまでに育って
ほしい姿**」（P.20参照）

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

幼児
教育

遊びを通しての
総合的な指導

※の場面で育っている
「**3つの資質・能力**」
（P.19参照）

学びに向かう力、人間性等

目 次

はじめに

本冊子の構成

各園の実践

- ・身近な自然を通して、豊かに感じ友達と響きあう保育をめざして
「生き物と触れ合うことを通して相手の思いを知る」 1
- ・トキメキ・ヒラメキ・響きあう援助を探る
「継続した３年間の保育から、幼児の成長を確かにする」 3
「P・E・A・C・E プロジェクトと合わせて保育を見つめなおす」 5
- ・人との関わりを通して心わくわくつながり合う環境を探る
「運動遊びを通して友達同士認め合う」 7
- ・心豊かな幼児を育む地域との連携を探る
「地域の保育園との交流を通じて、人と関わる力を育てる」 9
- ・一人一人が自分らしさを発揮し、異年齢の関わりが深まる保育のあり方を探る
「幼小の連携を通して小学校への期待が膨らむ」 15

資料

- 子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力 19
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 20

身近な自然を通して、豊かに感じ 友達と響き合う保育をめざして

芦屋市立宮川幼稚園

生き物と触れ合うことを通して相手の思いを知る

4 歳児1学期

自然との関わりの中で、子どもが感じる驚きや気付きを教師が受け止め、相手に伝えた
い思いを支え、友達と響き合える環境を整え保育を進めている。

5月、5歳児がザリガニに触れている様子を見て4歳児も興味をもった。「もっとよく見た
い」という興味や気付きをクラスで共有できるように、園庭にあるトロ箱のザリガニをタ
ライに入れて部屋で見ることにした。その後、クラスで話し合いザリガニをトロ箱に返す
か、部屋で世話をするかを決めた。

STEP 1

興味をもつ

大きなトロ箱の ザリガニ

- ・ 5 歳児がつかんでいるのを見る
↓
- ・ 自分も触ってみたい！
↓
- ・ つかめた！



STEP2

発見・驚き

クラスで見る タライのザリガニ

- 「ハサミを『バンザイ』してる」
- 「ハサミが強そう」
- 「ヒゲがある」

ザリガニ
大好き！
ずっと一緒
にいたいな



思わず触れたいくなる環境を保育室に用意して、
子どもの興味関心が広がるようにしましょう。
ザリガニにも生活があることに気が付き、自分と
重ね感じたことを話せる場をつくっていかう。

明日は土曜日

ザリガニはみんながいなくて大丈夫かな

- 「1人（匹）だとさみしいかも」
- 「仲間を連れて来る？」
- 「タライだと狭そうだよ」
- 「やっぱり 広いおうちがいいよ」
- 「返しに行こう」⇒トロ箱に返す

月曜日 やはり保育室で
ザリガニを育てたくなり、
タライより過ごしやすい
環境（水槽、水草など）
を考えることにした

STEP 3

思いや考えを 出し合う

水槽のザリガニ（クラスで育てる）

- 「タライより大きい入れ物にしよう」
- 「池にはエビとメダカも一緒に住んでるから入れてあげよう」
- 「ザリガニはメダカ食べるよ」
- 「一緒に住んでるから大丈夫だよ」
- 「水草とザリガニの遊ぶ場所もいるね」



トロ箱でザリガニ、メダカ、エビと一緒に暮らしているのを見て、ザリガニだけではさみしいだろうと、部屋で世話をする水槽でも一緒に過ごせるようにした。1か月後、毎朝エサをあげているにもかかわらず、メダカが1匹いなくなる。そのことをきっかけに、なぜメダカがいなくなったのかを話し合った。

※ 1 メダカが1匹いない？！

思ったことを話せる場をつくってクラスで共有しよう。



「メダカが1匹いないよ！」
 「隠れているかも」
 「ザリガニが食べた？」
 「昨日まで大丈夫だったよ」
 「どこにもいない きっと食べてる」
 「ザリガニの口が動いてる」
 「やっぱり食べたのかな」
 「ザリガニは何で食べたんだろう」
 「お腹がすいてたんじゃない！」
 「メダカ美味しそうな色だもんね」
 「毎朝、ごはん あげていたよ」
 「足りなかったんだ」
 「お弁当の時間にもあげよう」
 「夕方もあげた方がいいよ」
 「そうしたら、メダカは大丈夫だよ」
 「本当に大丈夫かな、もっと広くしよう」



～子どもの学び～

- ・生き物に対する興味が芽生える
- ・「どうしてだろう」「なぜだろう」と自分なりに想像したり考えたりする
- ・自分が感じたことを受け止めてもらう喜びを感じ、伝えたい気持ちが高まる
- ・いろいろな友達の思いを知る

ザリガニを身近に感じられる環境を用意することで、生き物の営みに子どもの興味が広がり始めている。年間を通してザリガニの生活に気持ちを寄せることで、自然界の不思議さや面白さを友達と共有する生活を展開していく。（ザリガニとメダカにとって住みやすい広さ、季節に応じた環境づくり）

※ 1 の学びの接続

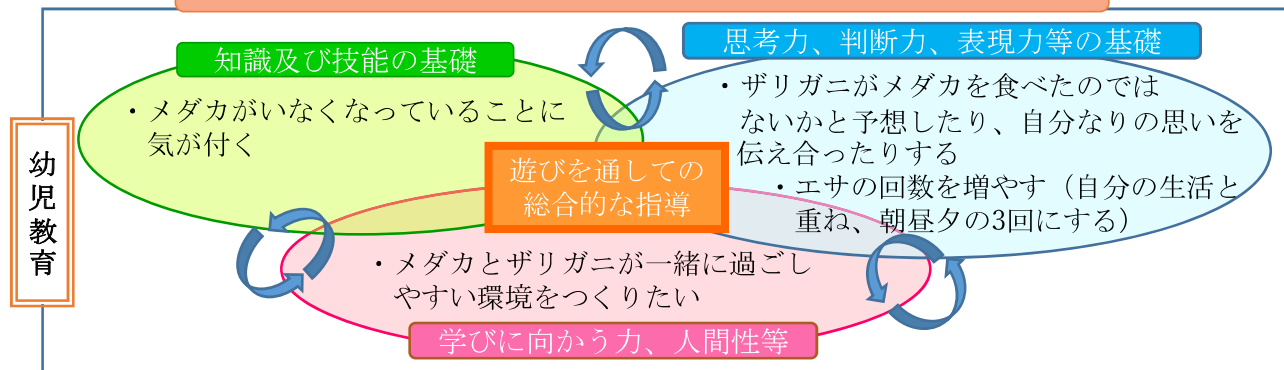
小学校以上の教育

国語 生活

関連する教科

関連する10の姿

自然との関わり・生命尊重 思考力の芽生え 言葉による伝え合い



継続した3年間の保育から、幼児の成長を確かにする

就学前までの3年間、幼児が体験を通して「楽しかった」と実感することから意欲を育て、友達とかかわり認め合っているように願っている。そこで幼児理解の視点を「トキメキ」「ヒラメキ」「響きあう」とし、協同的な学びの実現につなげたいと考えた。

〈トキメキ・ヒラメキ・響きあう〉の捉え

トキメキ…楽しい、嬉しい、もっとしたい、意欲、探究心 等	(非認知能力)
ヒラメキ…わかる、イメージを描く、工夫、試行錯誤 等	(認知能力)
響きあう…トキメキ・ヒラメキを共有する、協同的な学び 等	(非認知能力)

3歳児「幼稚園でいっぱい遊びたい」(5月～7月)

幼稚園に少しずつ慣れ始め、自分から「面白そう」「やってみたい」と遊びに目が向き、心がときめいている。思わず遊びたくなる環境(3歳児専用砂場、使いやすい用具等)や3歳児だけで園庭で過ごす時間設定をし、存分に遊ぶ楽しさを味わってほしいと願った。

4・5歳児が園庭の遊びから保育室に戻った後、4・5歳児が遊んでいた築山に行ったり、樋やパイプを自分達が遊んでいる場所に持ってきたりしている。

〈3歳児〉ときめいたことを すぐにやってみる・繰り返し遊ぶ



3歳児は全身を使って思い切り遊ぶことが大切!心揺さぶられる実体験を積み重ねたい。



大きい組さんの砂場から持ってきたよ



～ 3歳児の子どもの学び ～

- ・幼稚園で出会った物や遊び、人等に心を動かし「やってみたい」と感じる(トキメキ)
- ・「楽しかった」と感じたことを覚えていたり、4・5歳児がしていることを見ていたりし、「またしたい」「これを使ってみよう」と思い自ら遊びに向かう(ヒラメキ)
- ・幼稚園が安心できる居場所だと分かり、先生や友達と一緒に遊んでみたいと思う(響きあいの芽生え)

〈4歳児〉ひらめいたことを 友達と試してみる



～ 4 歳児の子どもの学び ～



- ・ 3歳児の経験から泥んこ遊びに適した樋や道具が砂場にあることを知っている。それらを組み合わせて工夫し、スライダーを作ることを楽しむ (トキメキ)
- ・ 勢いをつけて水を流すと飛び出すことがあると発見する (ヒラメキ)
- ・ 友達と気持ちを合わせて一斉に水を流すことを楽しむ (響きあいの芽生え)

〈5 歳児〉

- ・ 3・4 歳児の頃のトキメキ・ヒラメキが継続して友達と響きあう。
- ・ 思いを出し合いながら遊びをダイナミックに広げていく。

園内の環境（階段の段差・ビールケース、滑りやすい形の船の玩具、樋を留める洗濯ばさみ等）を※経験知をもとに遊びに取り入れている。



※経験知…経験したことで得た知識



水の流れを予想してスライダーのコース作りをしているんだ
コースを作ってから水を流すよ

砂場の温泉作りの友達に水を届けるよ



～ 5 歳児の子どもの学び ～

- ・ 園内の環境を生かし、ダイナミックに遊ぶ楽しさを味わう (トキメキ)
- ・ 3・4 歳児からの泥んこ遊びの経験を生かし、もっと遊びが面白くなるように友達と考え合ったり工夫したりする (ヒラメキ)
- ・ 友達と遊びを進める中で発見したことを共有し、役割分担しながら遊びに取り入れる (響きあい)

継続した3年間の環境構成や援助を振り返り、「トキメキ」「ヒラメキ」「響きあう」の視点から子どもの内面理解に努めた。そのことから、子どもの心の動きを細やかに読み取ることができ、園のカリキュラムと合わせて、学年に応じた子どもの成長を見つめなおす機会になった。

※ 2

の学びの接続

